

救急処置演習 A-IV		講義	講 師 清 家 洋
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391401

1. 授業のねらい・概要

3 年次までに習得した救急救命処置を、症例を通じてシミュレーション演習形式で知識・技術の定着を図る。実際の病院前医療で遭遇する頻度の高い事例について現場活動に則した観察・判断・処置・接遇・情報伝達が円滑に実施できることを目標とする。傷病者の受傷機転、病態生理による生体の構造・昨日の変化とその処置を理解する。事例の想定について臨床所見及び、病態変化を企画、立案し活動状況に応じた想定付与が可能となる能力を養う。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を向上させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。本演習に必要な知識及び技術は国家試験対策を含めた内容に反映し、講義を含め実施していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液について理解を深める。 3. 各種ショックの病態生理 各種ショックの病態生理について理解する。 4. ショックの鑑別 各種ショックの鑑別に関する知識・理解を深める。 5. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の手順と方法について習得する。 6. 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液のプロトコルについて習得する。 7. 救急活動 外傷傷病者と輸液について理解を深める。 8. 救急活動 外傷傷病者と輸液について理解を深める。 9. 救急活動 外傷傷病者と輸液について一連の活動を理解する。 10. 救急活動 外傷傷病者に対する一連の活動を習得する。 11. 救急活動 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の一連の流れを習得する。 12. 救急活動 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の一連の流れを習得する。 13. スキルチェック 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の一連の流れについてスキルチェックを行う。 14. スキルチェック 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の一連の流れ	17. 心停止に至る病態 非心原性心肺停止に至る病態の鑑別診断について理解を深める。 18. 非心原性心肺停止に対する観察・処置 非心原性心肺停止傷病者に対する観察と処置について理解を深める。 19. 非心原性心肺停止救急活動 慢性呼吸不全に起因する (COPD) 傷病者に対する救急活動行う。 20. 非心原性心肺停止救急活動 急性呼吸不全に起因する (アナフィラキシー) 傷病者に対する救急活動行う。 21. 非心原性心肺停止救急活動 (3) 頭蓋内病変、偶発性低体温症に起因する傷病者に対する救急活動行う。 22. 外因性の車内活動 外傷傷病者に対する車内活動でのアプローチについて理解を深める。 23. 外因性の現場活動 状況評価、傷病者の評価について理解を深める。 24. 広範囲熱傷に対する活動 広範囲熱傷に対する活動について理解を深める。 25. 広範囲熱傷に対する活動 広範囲熱傷に対する活動について理解を深める。 26. 外傷活動 外傷性心肺停止に対する現場活動についての理解を深める。 27. 多数傷病者対応 CSCATTT について理解を深める。 28. トリアージ トリアージの概念、手順と方法について理解する。 29. シミュレーション訓練 多数傷病者に対するシミュレーション訓練を行
--	--

についてスキルチェックを行う。 15. 中間試験 16. スキルチェック再試験	う。 30. シミュレーション訓練 災害に関する机上シミュレーションを行い、評価 をする。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週3時間以上を要する。実技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 病院前救護活動における心肺停止症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。
- 2) 病院前救護活動における外因性症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。
- 3) 病院前救護活動における内因性疾患症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。
- 4) 病院前救護活動における特殊疾患症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。

- ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
- へ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編(へるす出版)
改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック(へるす出版)
PEMEC ガイドブック2017(へるす出版)
適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 本科目は原則として、救急処置演習A-Ⅲ、救急車内活動演習において、C評価以上を得た者を対象とし、これに該当しない者は受講を認めない。
- 4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ(アイロンがけした制服、黒色または紺色のTシャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用)が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髪、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材(腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル)、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始10分前までに事前連絡がない遅刻、及び30分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。